時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり
時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり

時事新報

明治廿七年四月十四日　土曜日
舊暦甲午三月九日（丙、戌）
日出午前五時十二分　日入午後六時十二分
月出午前十一時五十四分　月入午前一時五十二分
滿潮午前十一時十七分　午後
（西暦一千八百九十四年）
年始より百四日　年末まで二百六十一日

第二五月附錄

府下十二名家の揮毫を石版に印刷し毎月附錄として配布する其第一回は已に時事新報の愛讀者に送達せり第二回の附錄は來る五月初旬を期して之を發行す其畫題並に畫家は

挿秧　松岡壽氏

にして田植の時節、田家の光景は宛然此畫中に集り質樸なる農家の少女が挿秧に忙しき狀態、寫し出して眞景を見るが如くなるべし

時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價（府外郵送には此他後に掲ぐる郵送料を要す）

一號　貳錢五厘○一箇月　前金五拾錢○三箇月　前金壹圓四拾五錢○六箇月　前金貳圓八拾五錢○一箇年　前金五圓六拾錢○月曜日休刊（[illegible]大祭祝日年始年末等一切休刊セズ）

前金　一旦受取りたる前金は凡て郵券を以て返戻する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報郵送料

一　日本國内並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津　一箇月　金拾三錢

二　東亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國　一箇月　金六拾錢

三　北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋　一箇月　金三拾錢

四　香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲　一箇月　金六拾五錢

五　露領浦潮斯德、清國諸港　一箇月　金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行に付	十三錢	十一錢	十錢五厘

廣告料定價　時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる筈なれども取次人の内には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絶する事もあるべき筈に付豫め廣告依賴者諸君に公告す

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を填塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと尠からず獨り時事新報社は社員社友に通信員の多きを以て所願の社に通信を依賴せしと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し然るに爲めに行違ひを生じたる場合も尠からざれば本社に記事觀察を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんみとを請ふ

時事新報社に寄せたる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

先々の先

劍法に先々の先と云ふみとあり其意は敵手が吾に先んじて打込まんとする其氣合を早くも察して更に之に先んじ以て勝を制するみとなり人事の競爭れひく劍客のみならざる中にも近來我國に於ける彼の排外論者の有樣を見るに恰も此傳を應用して一上一下その論する所いよいよ出でていよいよ奇なるものあるが如し抑も東西交通の便未だ開けざりし以前に在ては唯耳に東洋以外更に西洋あるを聞くのみにして曾て實地に目撃したる者なければ苟も事の西洋に關するものは皆爭ふて之を珍とし例へば眇たる一個の漂流人にてすら其物語の面白さに堂々たる學者紳士の間に優待厚遇せられたる程にして人氣の傾く所推して知る可し爾後時勢も次第に推移りて海外の交通に便利を得たるより漸く洋行を企つる者あるに至りたりしが其洋行の他に珍重せらるゝや亦非常にして是れは歐米を巡視して此程歸朝したる人なりと云へば唯素通り素見物の一書生にても世に持囃さるゝみと一方ならず又實際に於ても其洋行生は文明の學術技藝を傳へ間接直接に我國運を補益して茲に駸々たる進歩を來たし正に是れ洋行者全盛の時代を見るに至りしみとなれば有志の輩は如何にもして之に倣はんと欲し先を爭ふて洋行々々と唱へ甲乙丙丁相携へて年々歳々ますます其數を增すに從ひ西洋の奇も亦昔日の如く奇ならずして洋行必ずしも誇るに足らざる其趣を譬ふれば德川時代交通の不便なりし頃我版圖内にも蝦夷長崎の物語は京地の人に珍奇にして廻國者をして得意を專らにせしめたりしも封建の關門を撤し汽車汽船の便を得てより以來百里の隔地も比隣に等しく今は毫も珍奇となさゞるものゝ如し然るに人情既に之を珍重するの念なければ隨て之を厭ふの情を起すみとある習にして比年來一も西洋二も西洋とて彼の文物制度を輸入するみとの繁多なるよりして漸く之を煩はしきみと思ふて心中竊に不滿なると共に洋行者の羽振も自然に之が爲めに衰へんとするの有樣なりしかば機て競爭に油斷なき人世の事とて早くも此氣合を察し前記の所謂先々の先を取らんとして同じく洋行者にてありながら他に先んじて先づ西洋の攻擊を試み種々樣々の說を作す者なきにあらず云く開進改革多くは國家の不利なり英國の今日あるも實は人民が保守の氣象に富めばなり否な日本固有の美は遙に西洋に優るものありながら枉げて彼に倣ふ抔とは以ての外なり彼國學士の所說も國粹保存を大切として外國に對しては斯く斯くなり云々とて甚だしきは外人の品行を擧て近つく可らざるの種族なりと放言し事々物々排外を旨として愛國心とは排外心に外ならずとまで論究して以て世間に所謂頑固者流躍起連の意を迎へんとする者あるは正に今日の實況なり物に天下の事相を案するに一消一長すべて是れ反動を演ずるに非ざるはなし開進改革の反動として保守依舊の徒を生するも敢て怪むに足らざれども其みれを唱ふる曾て西洋を知らざる者ならば我輩も之を俗に云ふ喰はず嫌ひとして世人と共に冷視する迄のみとなれども如何せん身は既に海外を遊歷して具さに甘酸を嘗めたる人々が却て開進の前路に横はりて西洋と其進歩を共にするの非を論ずるに至ては滔々たる多衆復た其說の異端を究むる能はず雷同附和するは勢の免れざる所にして爲めに國事を誤るの極端に走るみとなしとせず現に客臘衆議院に現はれたる外交論の如きも一は根據を此邊に托するものにして無謀の論鋒も亦政府攻擊の具として有力なりとは以て弊風の及ぶ所を推知す可し論者が目前の功名を僥倖せんとて國家の大事を犧牲に供するを辭せざるが如きは如何に競爭の世の中にもせよ甚だ取らざる所にして曲學阿世と云はれても一言の辯解なかる可し我輩の惜む所なり

雜報

○移民保護規則　昨日の官報を以て公布したる同規則の要點は勞働を目的として海外に渡航するものは凡て旅劵を携帶すべき事此等移民を募集し或は其渡航を周旋するものは移民取扱人と稱し移民の海外に於て疾病に罹りたるときの費用歸國旅費等に充つる爲め一萬圓以上の保證金を差出し置くべき事移民取扱人に據らずして渡航する移民は情狀に依りて二名の身元引受人を立つる事等にして要は移民が適當の職業なく或は職業を失ひ進退維谷るの場合を保護するの目的に出でたるものなるべしと雖も規定の事柄は第一議會に提出せられたる密航婦女保護法案と同じく住居の自由にも關するみとなれば宜しく法律を以てすべしとの議論を生ずるやも計り難しと云ふものあり

○陳情書の呈出　千谷判事の轉補問題に就て東京辯護士中の硬派と稱する有志者は一篇の陳情書（去月二十七日の本紙上に掲載せる者）を其筋へ呈出せんとて調印中なりしが此程同辯護士中の高橋庄之助外二名同業者の總代となり伊藤總理大臣と芳川司法大臣の許に差出したるよし

○同盟休業　兵庫縣燐寸小函及素地製造組合にては臨時會の決議により來る十六日より商況回復の時まで同盟休業を爲すよし

○漁業採藻稅則の發布　神奈川縣にては曩に同縣會に於て議決せし漁業採藻稅則を其筋の認可を得て一昨日發布本年度より施行の筈なり

○立川雲平氏　は杉田定一氏の被告事件に付き辯護の爲め昨日出發長野縣を經て福井縣へ向け出發せり

○高等商業學校競漕會　去る八日に行ふ筈なりし高等商業學校の端艇競漕會は降雨に妨げられて順次延會となり遂に一昨日を以て隅田川上流に催したり會長は由布同校長にして審判及號令者は坂本、瀨之口、太田、江副の四海軍大尉なり豫定競漕番數十四の外に一二の番外競漕ありて調子の不揃ひなる所、態度の不樣なる邊却て傍觀者の大喝采を博しヤンヤの聲は暫しの間止まざりけり端艇は枕橋八百松樓前より帝國大學艇庫の前迄一千米突、端艇四艘青龍、白虎、朱雀、玄武と名く潮流は重もに逆なりしかば遲きは七分二秒間を費やしたるもありしが午後三時頃より漸次平流に傾かんとする模樣ありしに連れて競漕時間も次第に早く平均すれば六分二三十秒の間なりしならんか來賓競漕には帝國大學、第一高等中學校、日本銀行、第百十九國立銀行等に於ける一騎當千の荒武者何れも今日を晴れの競漕と勇み立ちたり當日は新に憲法一…
て折角勝ちながら知らず識らず憲…
直しを命ぜられしもあれば夫れに…
勝負事の常とは云へ何んとか彼を…
情の絶間はあらざりしも黃昏頃無…
天に付順延したる結果にや但しけ…
めにや來賓は割合に多からず然れ…
花なりとも見んとてか彼方此方よ…
女追がの長堤も押合ふ許りの混雜…
點異近く進み來るときには喊聲の…
赤よと叫び狂ふ聲に和して壯觀限…
尤も際遠き勝負は日本銀行と第百…
にして始終傍觀者の心膽を寒から…
身の差を以て勝旗は日本銀行に上…
ンピサンレースの時には既に薄暮…
なりしかば來賓を始め域外の群集…
る折柄にて競漕者に執りては聊か…
らんチャンピサンレースの番組は…
赤（本科第三年）　白（本科第二…
青（豫科第二年）
の四組にして何れも必死の競漕を…
に上げられ第一年生萬歳の聲は再…
是れぞ即ち時事新報社の金牌を得…
氏名は左の如し
舳手　盛田四郎、二番　栁內常…
四番　河原林順次郎、五番　加…
舵手　神木治三郎

○五品大會彙報　去る十日…
て五品大會委員の集會を開き左の…
一來る十五日午後二時を期し東山智恩院境…
を開き會塲をして東西六間南北三十間の…
夜に入りて無數の毬燈を點ずる事及び山…
以て來會者の休憩所に充つる事
一來る二十一日午前十一時を期し洛西嵯峨…
三十艘を浮べ外に音樂船を準備して餘興…
以て事務所に充て同所前には五色の大旗…
設け其他百般の斡旋に從事する委員百名…
又同會の日取は左の如し
一四月十一日より十四日迄[illegible]館に於…
一十五日午前九時より府廳內式塲に於て開…
閉會の趣旨を述ぶ
一同日午後二時より東山智恩院境內に於て…
一十六日[illegible]館に於て陳業會を開く…
總代及び有志の演說あり
一十七日午前八時より紙類（扇子團扇を含…
銅器（七寶を含む）○午後七時漆器
一十八日午前九時より正午十二時迄審査…
頭前田氏は同日午後一時より同十二時迄…
一十九日陳業會を開く（大意左の如し）
午前八時織物類（染物刺繍組紐を含む…
器（七寶を含む）○午後三時漆器○午後…
一二十日午前九時より決議會及び閉會式…
總代の祝辭あり
一二十一日午前十一時より洛西嵯峨嵐山…

○汽船宮川丸の運轉式
鐵工所に注文せし汽船宮川丸は…
て明日天保山沖より舞子沖迄試…
は鋼鐵丈百六十五呎巾二十一呎…
公稱六十五馬力、器械は三聯成…
一時間十三海里を疾走し頗る好…
大阪鐵工所に汽罐を製するにハ…
鐵器械の設けなかりしも同所々…
年英國に赴きたる第百三十噸の…
業傭を濟となり今回始て宮川丸…
國に出來したるよし